

都道府県・指定都市番号	21	都道府県・指定都市名	岐阜県	研究課題番号・校種名	3 (5)
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (園児・児童・生徒数)	かいづしりつたかす ・海津市立高須小学校 (309 人) よしさと ・海津市立吉里小学校 (81 人) ひがしえ ・海津市立東江小学校 (72 人) おおえ ・海津市立大江小学校 (61 人) にしえ ・海津市立西江小学校 (84 人) にっしん ・海津市立日新中学校 (356 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・基本的な学習習慣が定着し，落ち着いて学習に取り組むことのできる児童生徒が多い。 ・中学校区の小学校のうち 4 校は小規模校であり，各学校の児童が中学校に進学してからも人間関係で悩まないように配慮している。	
所在地 (電話番号)	海津市立日新中学校：岐阜県海津市海津町高須 531-1 (0584-53-0040)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://school.city.kaizu.lg.jp/~nisshin-chu/index.html				
研究のキーワード	授業スタンダード 9年間の学びの変容 授業改善 認め合う学習集団 実態把握				
研究結果のポイント	○小中各校の授業スタンダードを基にした『日新中学校区の授業はこれだ!!』『9年間の学びの変容』を作成したことで，日新中学校区全体で授業改善を図ることができた。 ○全ての学校で児童生徒相互による価値付けや認め合い，教師による価値付けを継続することで，児童生徒一人一人が安心して授業に向かうことができた。 ○児童生徒・教師の意識調査結果から，現在の授業のよさや改善点が明らかになった。また，他校の授業参観を積極的に行い，日新中学校区全体で児童生徒を育成しようとする教師の意識が高まった。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

児童生徒が主体的に取り組むことができる学習指導の在り方

(2) 研究主題設定の理由

日新中学校区では，五つの小学校から一つの中学校に進学する。それら五つの小学校のうち 4 校は，単学級の小規模校である。

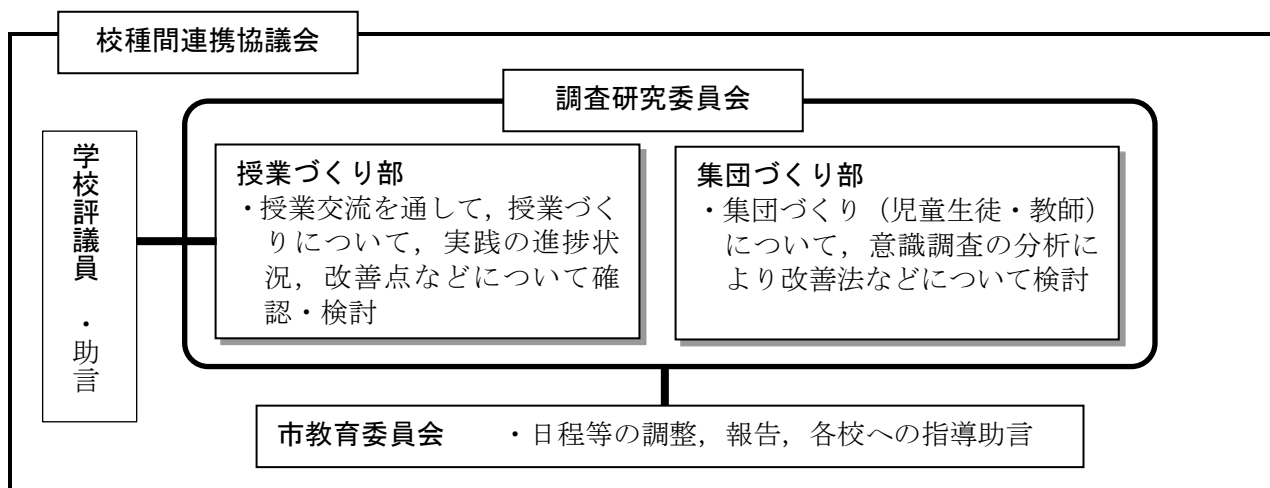
海津市には，初任者，1 校目完了者，常勤講師など，3 年以内で転出する教員が多い。そのため，全ての教師が方向性を同じくして指導を行える仕組みをつくる必要があると考えた。

これまで日新中学校区では，小学校から中学校への円滑な接続を図るため，各校での指導の在り方について交流し，改善を図ってきた。平成 26，27 年度に指定を受けて実施した「魅力ある学校づくり調査研究事業」においては，児童生徒が安心して学ぶことができる授業づくりや，学校生活全体を通じた「よさ見付け」を行うことで，学校が楽しいと感じる児童生徒の割合を高めることができた。

本研究においては，これまでの取組を土台としながら，特に授業づくりに焦点を当て，児童生徒が主体的に授業に取り組み，学ぶことが楽しいと感じることができる学習指導の在り方について更に研究を進めようと考えた。特に，小・中学校を通じて子供を育てるという視点から，発達段階を考慮しながら，全ての教員が 9 年間の学びを見通した授業づくりを行えるような仕組みを構築することを目指した。

このように，9 年間のどの学年においても授業を楽しみ感じ，主体的に授業に取り組むことができる児童生徒を育てたいと考え，上記の研究主題を設定した。

(3) 研究体制



※校種間連携協議会（調査研究委員会）の構成員

- ・中学校 ……（校長，教頭，事業担当者，研究委員）
- ・各小学校 ……（事業担当者，研究委員）
- ・市教育委員会 …… 学校教育課長，（指導主事）【指導，助言】
- ・地域より …… 各校1名の学校評議員 【助言】

(4) 2年間の主な取組

平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回調査研究委員会 …… 事業計画の確認，研究内容の具現化及び担当決定 ・第2回調査研究委員会 …… 『日新中学校区の授業はこれだ!!』の作成，授業交流の視点の明確化，児童生徒・教師意識調査内容の明確化 ・第1回授業づくり研究会 …… 日新中学校の授業公開，各校の学校評議員への事業説明 ・第3回調査研究委員会 …… 1学期の実践，意識調査のまとめ，2学期以降の研究内容 ・第4回調査研究委員会 …… 研究構想図の確認，『9年間の学びの変容』の作成 ・教育課程研究指定校事業研究校視察（敦賀市立角鹿中学校） ・第2回授業づくり研究会 …… 東江小学校の授業公開，佐藤調査官講話 ・第5・6回調査研究委員会 …… 中間報告書について ・第7回調査研究委員会 …… 2学期の実践，意識調査のまとめ <p>※児童生徒・教師意識調査 実施及び集計まとめ（毎学期）</p>
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回調査研究委員会 …… 事業計画の確認，研究内容の具現化及び担当確認 ・第1回授業づくり研究会 …… 日新中学校区全職員に対する研究内容の確認 ・第2回調査研究委員会 …… 『9年間の学びの変容』の検討，4月の意識調査の分析検討 ・第2回授業づくり研究会 …… 大江小，西江小，日新中学校の授業公開，各校の学校評議員への事業説明 ・第3回授業づくり研究会 …… 吉里小，東江小，高須小学校の授業公開 ・第3回調査研究委員会 …… 1学期の実践，意識調査のまとめ，2学期以降の予定確認 ・第4回調査研究委員会 …… 日新中研究発表会での役割分担について ・第5・6回調査研究委員会 …… リーフレットの作成 ・第7・8・9回調査研究委員会 …… プレゼンテーションの作成，発表リハーサル ・第4回授業づくり研究会 …… 高須小，東江小，吉里小，西江小，大江小の授業公開 ・国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業 日新中公表会，佐藤調査官ご指導 ・平成30年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業 研究協議会 <p>※児童生徒・教師意識調査 実施及び集計まとめ（毎学期）</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 主体的に取り組み、学ぶことが楽しいと感じる授業づくり
 - ・一単位時間における授業スタンダード『日新中学校区の授業はこれだ!!』を作成し、その授業像に基づいた『9年間の学びの変容』を明確化することで、小中連携を図る。
 - ・児童生徒に主体的に取り組もうとする思いをもたせる授業改善を行う。
- ② 一人一人が学習者として認められ、安心して授業に向かうことのできる学習集団づくり
 - ・「魅力ある学校づくり調査研究事業」(H26・27年度)で確立させた集団づくりの土台を基に、児童生徒が相互に努力や成長を認め合う活動を継続させる。
- ③ 児童生徒・教師の意識調査及び結果分析と「授業後アンケート」の活用
 - ・意識調査を実施し、PDCAサイクルで結果分析を指導に生かす。
 - ・日新中学校区の学校が互いに授業を公開し合い、「授業後アンケート」を指導に生かす。

(2) 具体的な研究活動

- ① 主体的に取り組み、学ぶことが楽しいと感じる授業づくり
 - ・一単位時間における授業スタンダード『日新中学校区の授業はこれだ!!』を基にした『9年間の学びの変容』の明確化

授業展開を四つに区分し、それぞれで目指す児童生徒の姿を明らかにし、また、義務教育の9年間の発達段階に分けて整理したものを『9年間の学びの変容』としてまとめた。

◇9年間の学びの変容 (◆目指す児童生徒の姿)				
	導入	展開前段	展開後段	終末
中2・3	◆自分たちで既習内容を踏まえて課題を見いだす。 ◆自分で解決方法を考え、見通しをもつ。	◆解決できたら他の方法で考えたり、つまずいたら別の方法で考えたりと粘り強くやってみる。 ◆つまずいた時、「ここが分からない」と自分から仲間へ尋ねたり、できたらつまずいている子に自分から声をかけて助言したりする。	◆仲間との関わりを通して、納得、理解につながる交流を自分から行う。 ◆考えの根拠や交流の目的、交流の中での考えの変容を意識しながら伝える。	◆自分でまとめ、仲間と交流して確かにする。 ◆自分のよさ、仲間のよさ、 <u>次への学習、生活とのつながりについて考え、表現する。</u>
小6・中1	◆提示された問題から交流し、課題を見いだす。 ◆教師の助言をもとに、児童生徒で交流して解決方法を見つける。	◆つながりのある手がかりを見つけて、自分で考える。 ◆つまずいたら「わからない」と仲間や教師に自分から尋ねたり、仲間へ尋ねられたら助言したりする。	◆仲間の考えを自分の考えと関連づけて聞き、自分の考えを話したり、質問したりする。 ◆考えの根拠や思考の流れを分かるように組み立てて伝える。	◆板書などから大切なことを見つけて自分でまとめる。 ◆自分のよさ、仲間のよさに気づき、 <u>次の学習への意欲につなげる。</u>
小	◆提示された問題から、課題を見いだす。	◆「どれでできそうか」選んで、自分で考える。	◆仲間の考えを自分の考えと関連づけて聞き、つなげて自分の考えを話す。	◆提示されたキーワードを使って、自分でまとめる。

【9年間の学びの変容 一部抜粋】

- ・主体的に取り組もうとする思いを持たせる指導改善の工夫

『9年間の学びの変容』にある目指す児童生徒の姿を育成するための具体的な手立てを考え、授業改善を行った。学習指導案や「授業後アンケート」には、その具体的な手立てを明記した。

6 本時の展開		学習活動	「9年間の学びの変容」 ◆目指す児童・教師の手立て
通	1	フラッシュカードを使って、復習をする。	【導入】 ◆教師が示した場面、問題を理解する。 ・フラッシュカードから、前時との違いを見つけられるようにする。 【展開前段】 ◆ヒントをもとに、一つ一つの学習活動を楽しみながら取り組む。 ・前時の9+4の提示を提示し、解決の見通しをもてるようする。 ◆学習の約束を理解して、安心して授業に臨む。 ・ブロックの操作活動を立てて行い、説明できた児童から席で、図、さくらんぼ計算の順で考えさせる。 【展開後段】 ◆学習の約束を理解して、安心して授業に臨む。 ・仲間の意見に、ハンドサインを使って反応し、つなぎ発言ができるようになる。教師による評価づけは行ない。
つか	2	問題を探える。 8+3の けいさんの しかたを いきましょう。	
か	3	前時と比較し、課題につなげる。 ・きいていること：8+3のけいさんのしかた。 ・今日もたし算。今日も答えは10より大きくなりそう。 ・前は9+3だったけれど、今日は8+3。 ・9だったけれど、今日は8。	
見	4	課題を設定する。 8+3の けいさんの しかたを かんがえよう。	
通	5	見通しをもつ。 ・前は9に1をたして10にしたよ。 ・そうしたら10といくつで計算できた。 ・今日も使えそうだな。	
す	6	個人追究する。	
10		考える・深める	

【学習指導案 一部抜粋】

「児童生徒が主体的に取り組む授業づくり」 授業後アンケート			
①数値に○をつけてください。4：よくできていた 3：できていた 2：もう少し ②裏面、◇9年間の学びの変容(◆目指す児童生徒の姿)の中から参観した学年に該当する目指す姿に近付けるために教師の手立てとしてよかったこと、もっとこう希望する点があれば記入してください。			
導入	展開前段	展開後段	
「はっきりさせたい」「調べてみたい」思いをもち、課題を見つめる。	「解決したい」という思いで自ら追究する。	仲間との関わりを通して、理解交流をする。	
4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	
今日の式の8+3は、9+3と何がちがう?と問いかける事で本時考える事を明確にする。	ブロック操作を全員で取り組んだ後に、図やさくらんぼ計算で説明を考えさせ、被加数8を10にするために、加数3から2をもってきたことを明確にさせる。	全体交流において、10に気づくように、教師が児童を促す。	

【授業後アンケート 一部抜粋】

② 一人一人が学習者として認められ、安心して授業に向かうことのできる学習集団づくり

・児童生徒が相互に努力や成長を認め合う活動の充実

全ての学校で「よさ見付け（よいこと見付け）」を継続して行った。児童会・生徒会・教師から児童生徒のよい姿を紹介することで、価値付け方の手本を示した。また、授業においても教師の価値付けや児童生徒相互による価値付け・認め合いの場を位置付けることで一人一人の自己有用感を高めるようにした。

③ 児童生徒・教師の意識調査及び結果分析と「授業後アンケート」の活用

・意識調査の実施と分析

児童生徒が主体的に授業に取り組み、授業を楽しんでいるかを把握するために、小学校第4学年以上で意識調査を行った。どんな時に学ぶことが楽しいと感じているのかを把握し、手立ての工夫に生かした。また、同時に教師の意識調査を実施し、教師が課題と捉えていることを明らかにした。

・「授業後アンケート」の活用

毎月作成される市内各小・中学校の公開授業一覧を基に、積極的に授業参観を行った。参観者は、授業会場に設置されている参観後のアンケート（「授業後アンケート」）に必ず答えるようにすることで、授業改善が有効であったかどうかを振り返ることに役立った。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

○小中各校の授業スタンダードを基に『日新中学校区の授業はこれだ!!』や『9年間の学びの変容』（主体的に取り組む児童生徒の目指す姿や発達段階に応じた指導方法など）が明らかになり、校区全体で日々の授業実践を通じた検証を重ねることができた。

○全ての学校で「よさ見付け」を継続するだけでなく、授業においても価値付けや認め合いを位置付けることで、互いに認め合う雰囲気定着した。中学校においては、仲間との関わりから学んだことを振り返る姿が見られるようになった。

○他校の授業を参観して学び合おうとする職員の割合が増え、教員同士による客観的な評価を取り入れることで、日新中学校区全体で目指す児童生徒を育てるために更なる授業改善を図ろうとする意識が高まった。

○昨年度の小学校第6学年と今年度の中学校第1学年の児童生徒の意識調査の結果（進んで学習できていると感じている割合H29 83.0%→H30 84.1%）から、中学校へ進学後も授業に対する意欲の高さが持続しており、小学校から中学校への接続が円滑に進んでいることが明らかになった。

●『9年間の学びの変容』にある目指す姿を求めて指導改善を行ってきたが、授業の展開後段や単元終末段階での目指す姿の達成度がやや低いいため、問題解決した後に児童生徒が次の学びへつなげようとしていたり、授業の最初と最後を比べて児童生徒自身が変容を確認したりする姿を求めて指導改善を図る必要がある。

●授業交流の際で用いられた「授業後アンケート」を取りまとめて日新中学校区で共有をしている。今後は、集計結果を授業改善に対してどのように活用していくのかを検討していく必要がある。

4 今後の取組

今後も継続して、『9年間の学びの変容』を日新中学校区全体で活用し、目指す児童生徒の姿を求めて指導改善を行っていく。他校の教師が参観できる授業を積極的に公開し、「授業後アンケート」だけでなく研究会にも参加する機会を増やすことで、日新中学校区全体で児童生徒を育てるという意識を更に高めていきたい。